

J-STAGEの現況と今後の計画



独立行政法人科学技術振興機構
研究基盤情報部電子ジャーナル課
久保田 壮一

平成20年12月16日

第8回SPARCセミナー

J-STAGE・Journal@rchive について

背景・ニーズ

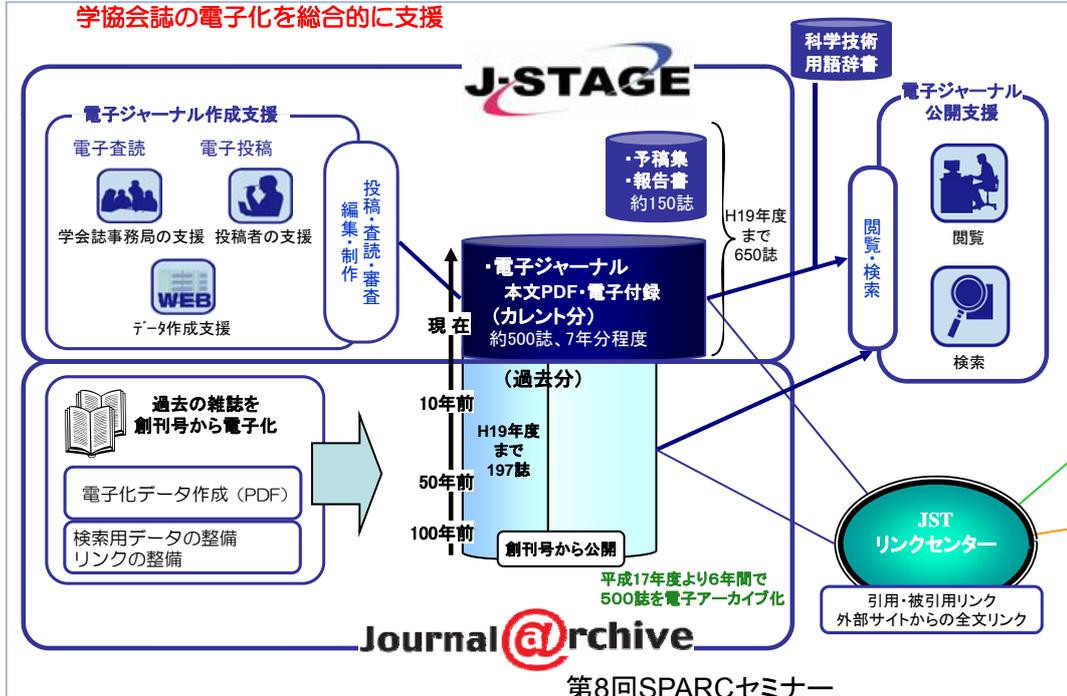
- ・我が国の学協会が発行する論文誌の電子化が遅れており、情報発信力が弱い。
電子化されていない論文は見てもらえない。優秀な論文が発信力の強い海外誌へ流出。
- ・我が国の学協会には厳しい財政的条件下、単独での論文誌の電子化は困難。
→我が国の学協会の論文誌のプレゼンスを高めるため、電子的な情報発信の支援が必要。

【第3期科学技術基本計画】
「論文誌等の電子アーカイブ化支援」、「学協会の論文誌の国際競争力強化」

事業の内容

- ・科学技術に関する学術情報の発信と流通の迅速化と国際化を図る
- ・我が国の学協会発行の論文誌の発信力強化を図り、我が国の重要な知的資産の保存を行う

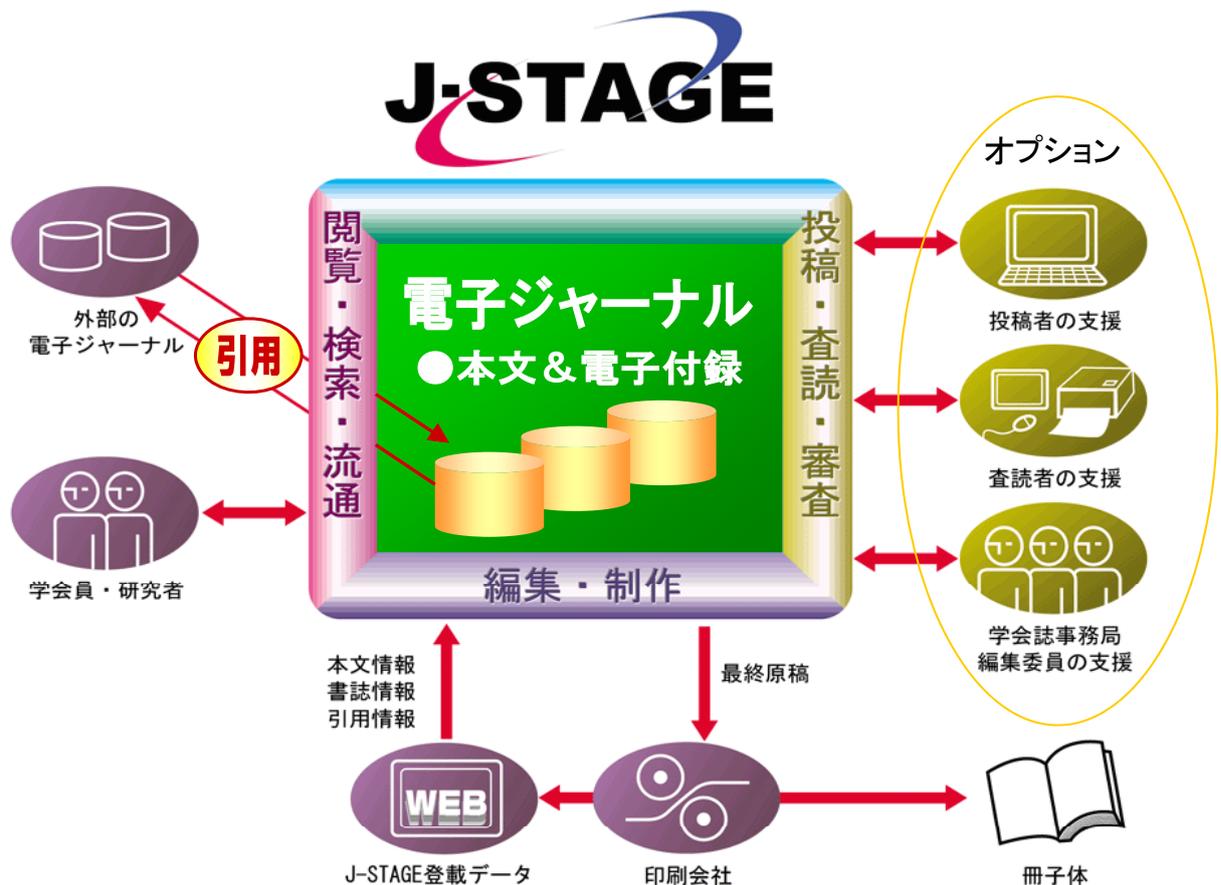
学協会誌の電子化を総合的に支援



国内外への
情報発信、
知的財産
の保存

第8回SPARCセミナー

J-STAGEの利用形態



第8回SPARCセミナー

J-STAGEの利用状況

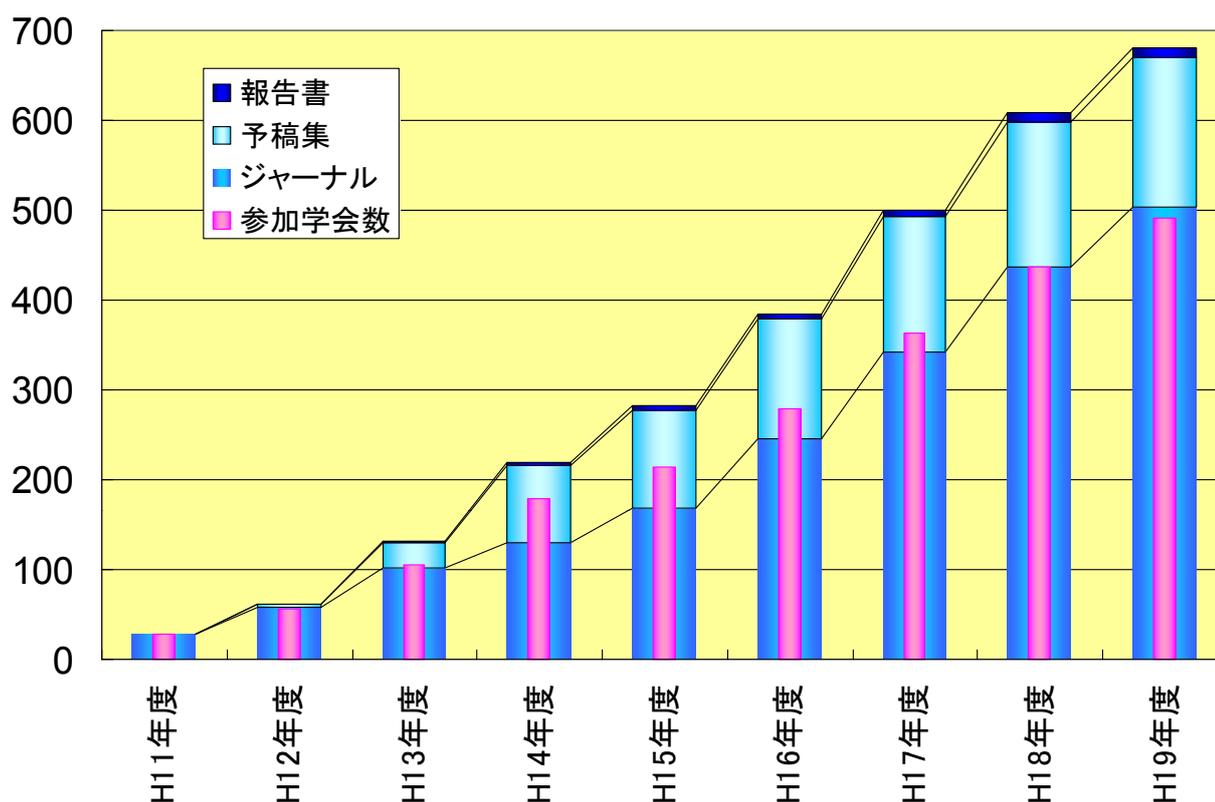
- J-STAGEを利用している学協会・ジャーナル数等

(平成20年11月末現在)

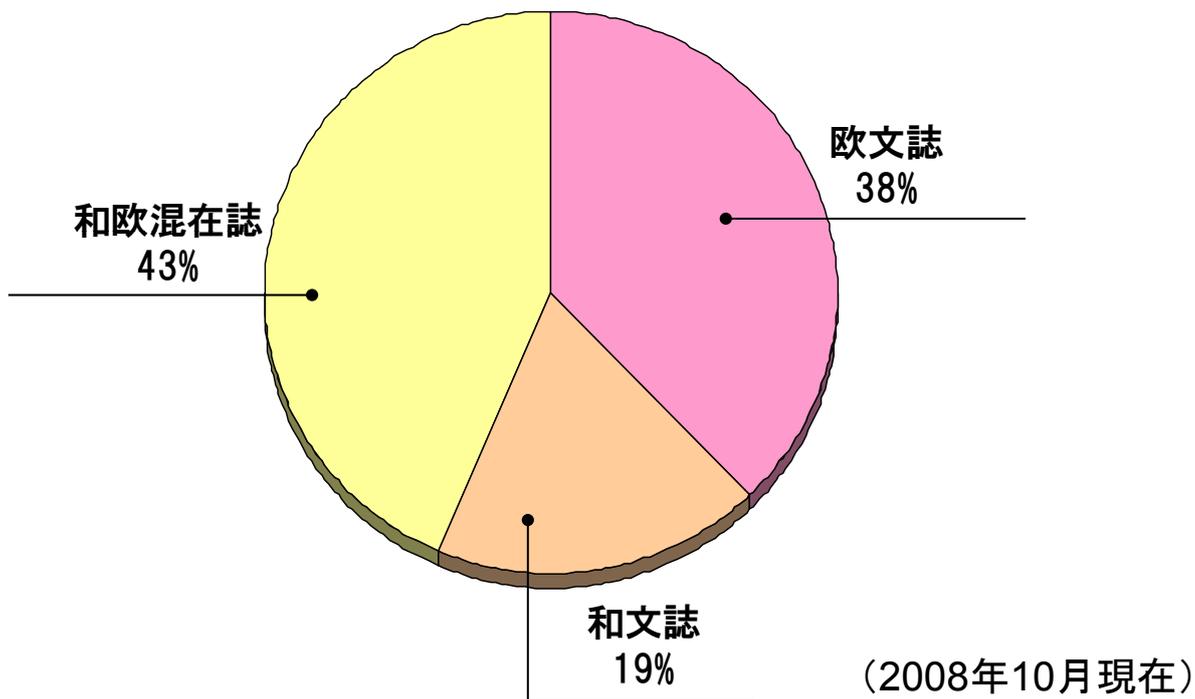
	公開誌数#	利用申請数	利用学協会数
ジャーナル	521	541	439
報告書	10	9	9
予稿集	122	169	136
合計	653	719	516 ※

※重複を除いてカウント
#誌名変更分を別資料としてカウント

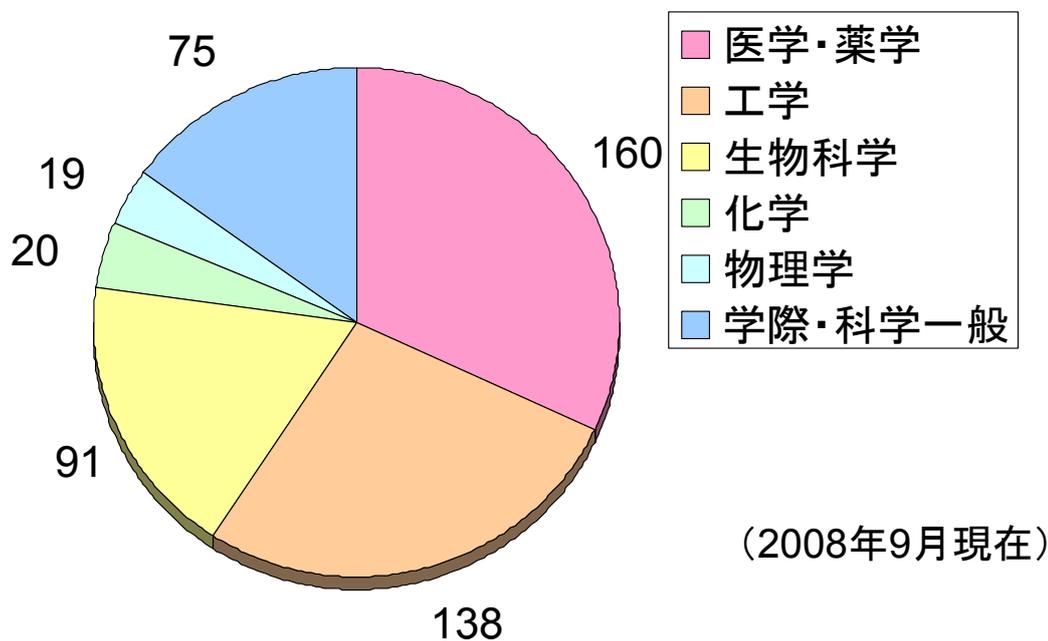
J-STAGE参加学会数・誌数の推移



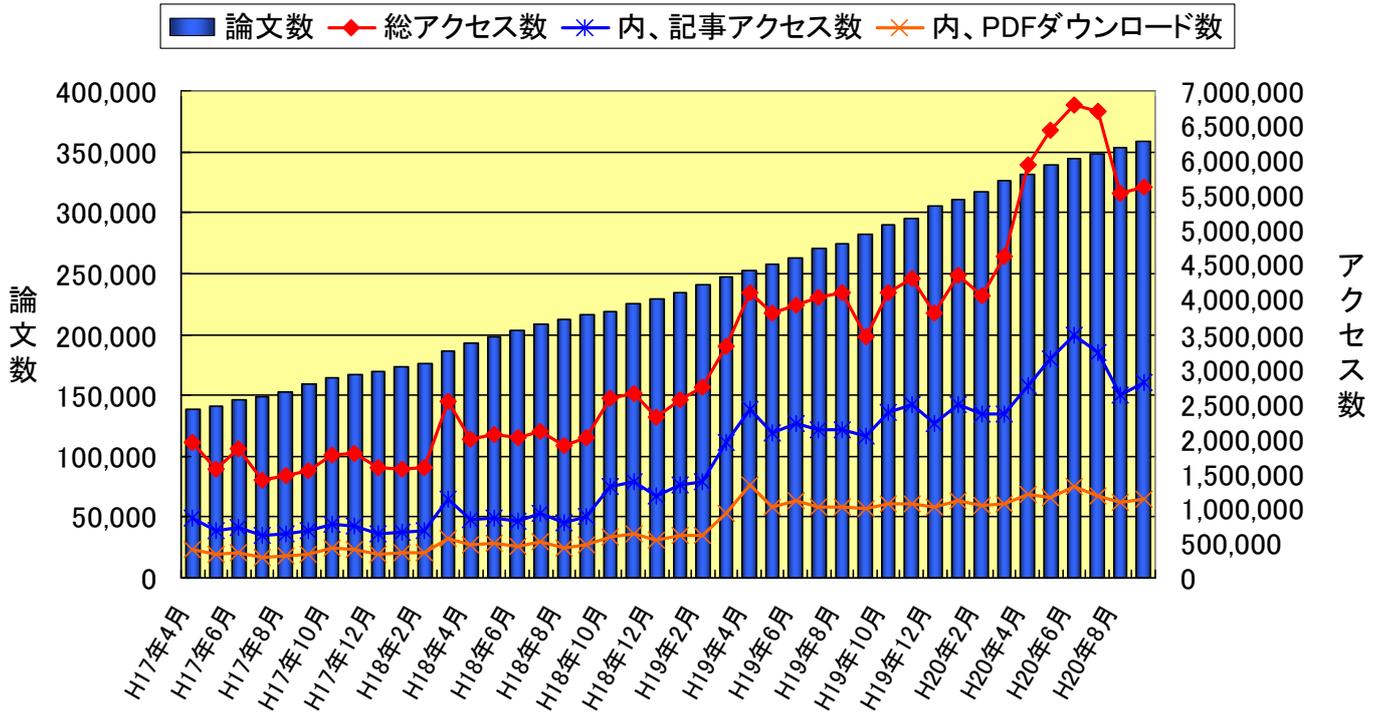
J-STAGE公開ジャーナル 言語別誌数



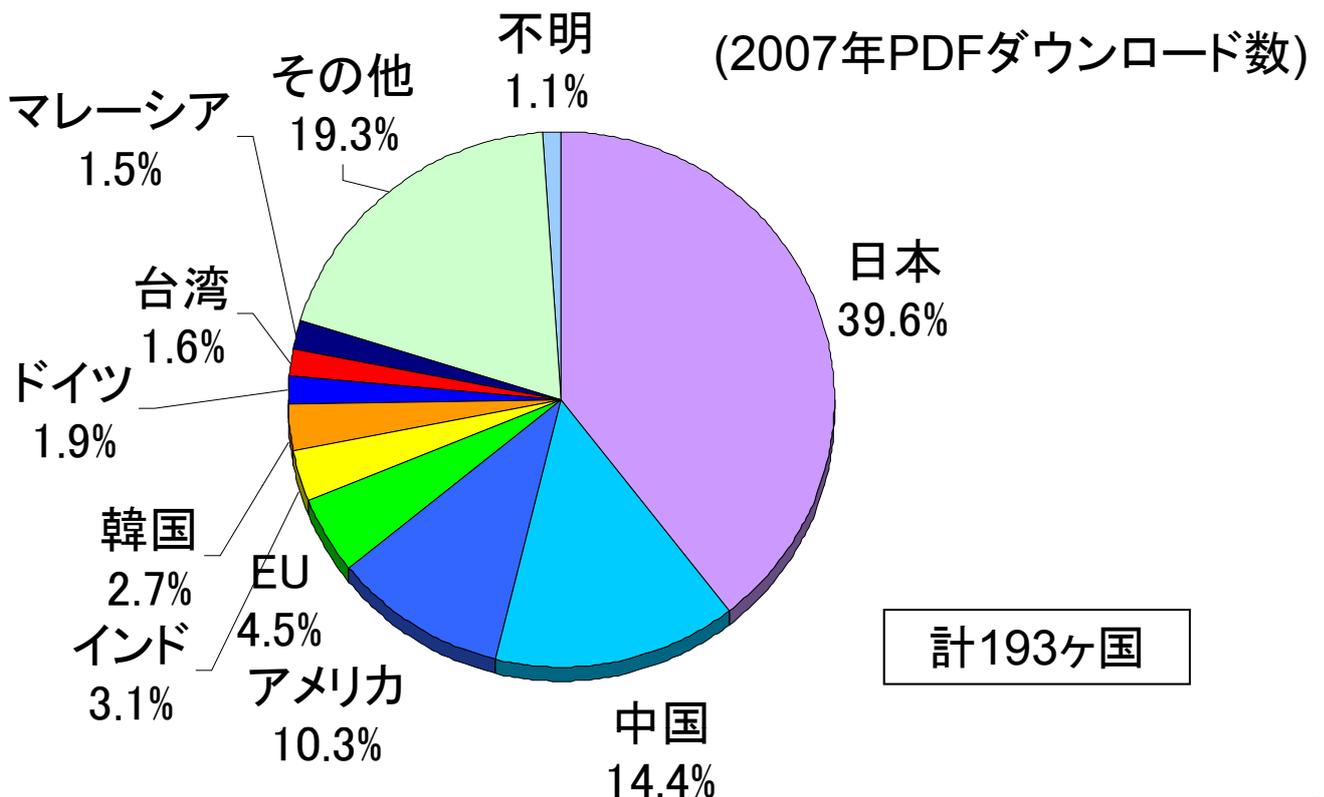
J-STAGE公開ジャーナル 分野別誌数



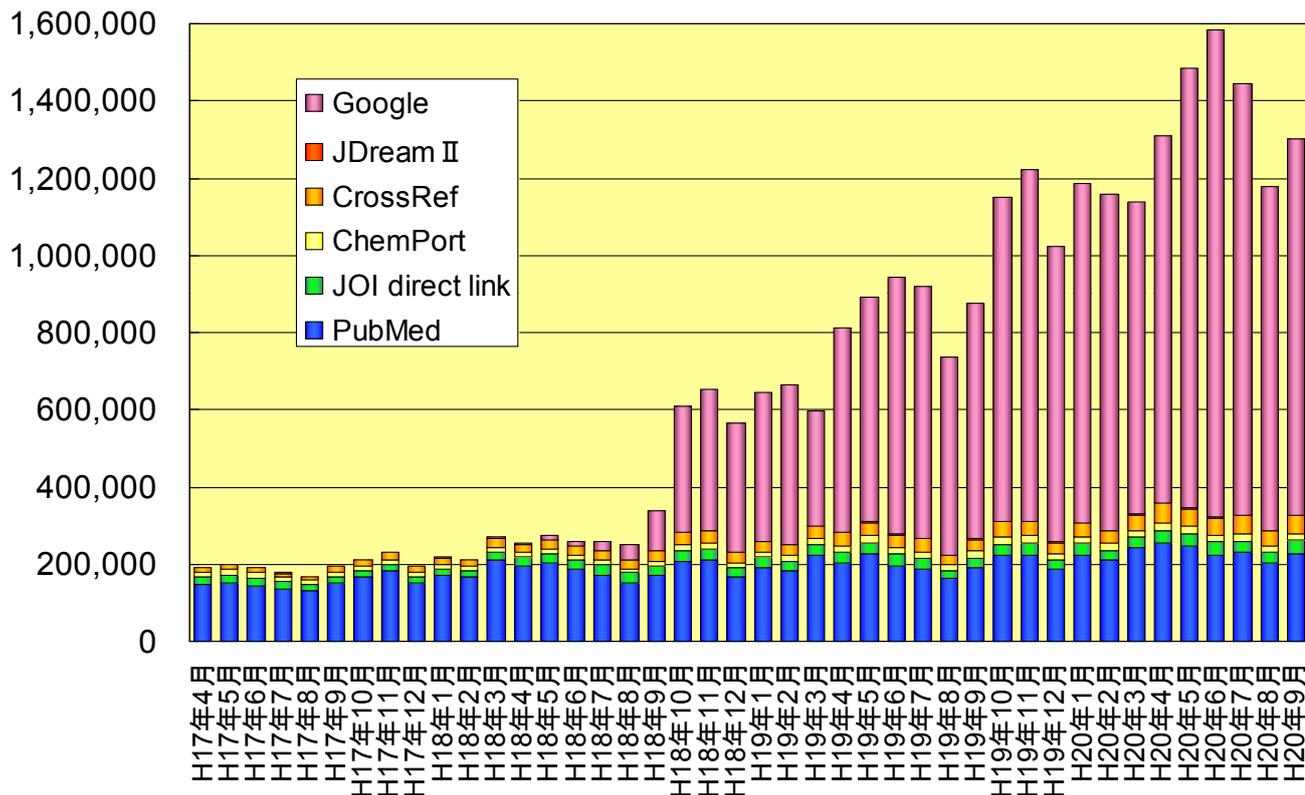
J-STAGE登載論文数と月間アクセス数の推移



J-STAGE登載記事への 国別アクセス状況



外部サイトからのアクセス数の推移



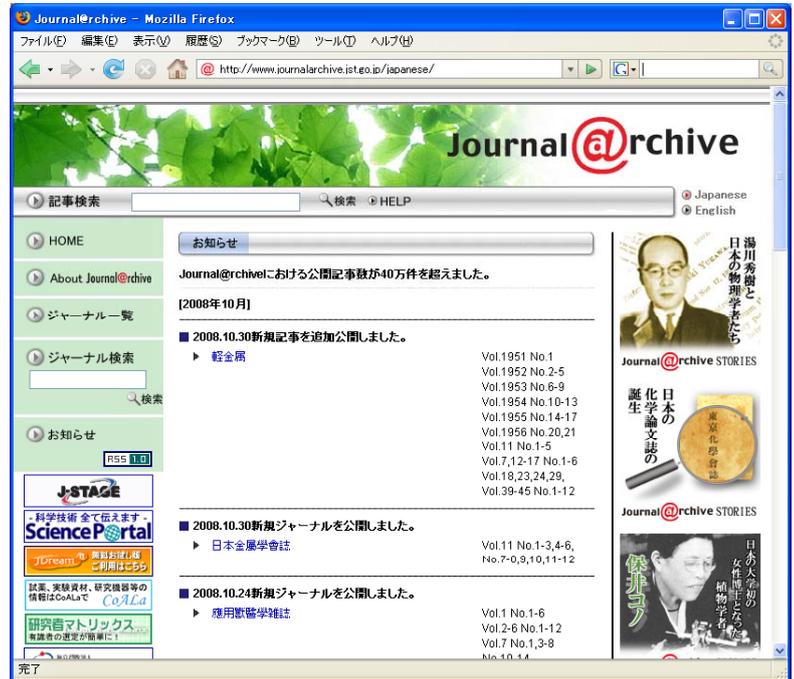
J-STAGEの特長

- 無料
- 日本語の扱い(投稿審査／公開検索システム)
- 日本の学協会への対応
- アーカイブとの統合
- JSTリンクセンターを介した他システム連携
- J-GLOBALとの連携(予定)

電子アーカイブ事業

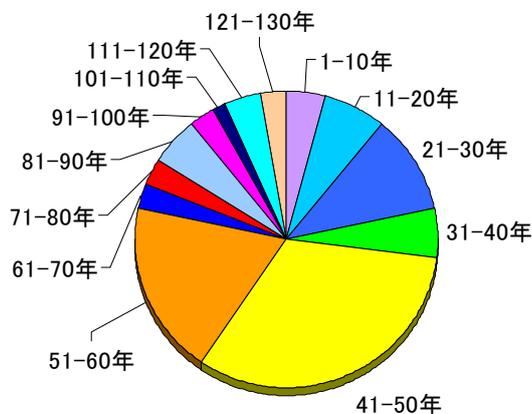
Journal@rchive

- 国内学協会の学術雑誌の国際発信力強化と日本の知的財産の保存を目的
- 紙媒体の雑誌を創刊号から電子アーカイブ化
- 対象誌: 日本学術会議や関連機関の協力を得て組織した科学技術論文発信・流通促進事業推進委員会(黒川 清 委員長)で選定



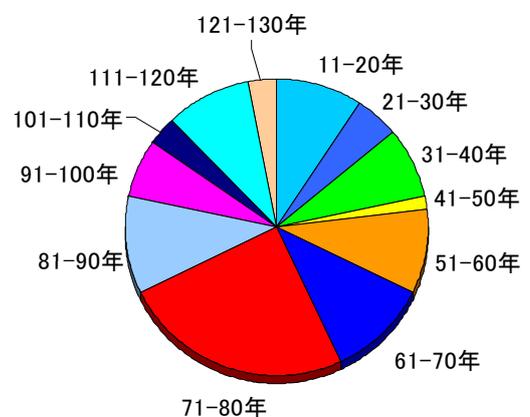
電子アーカイブ対象誌の創刊からの年数分布

平成17年度74誌



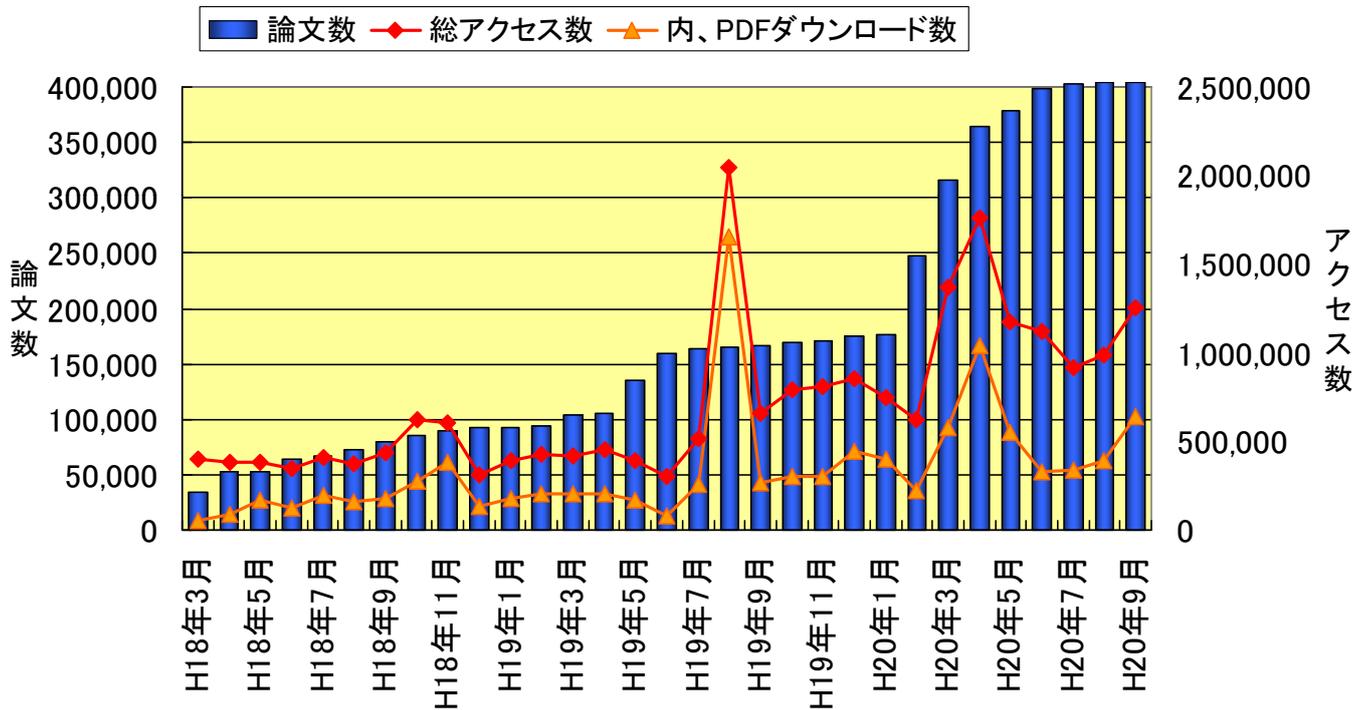
作成データ量概数延べ
3,500年
39万論文
290万ページ

平成18年度65誌

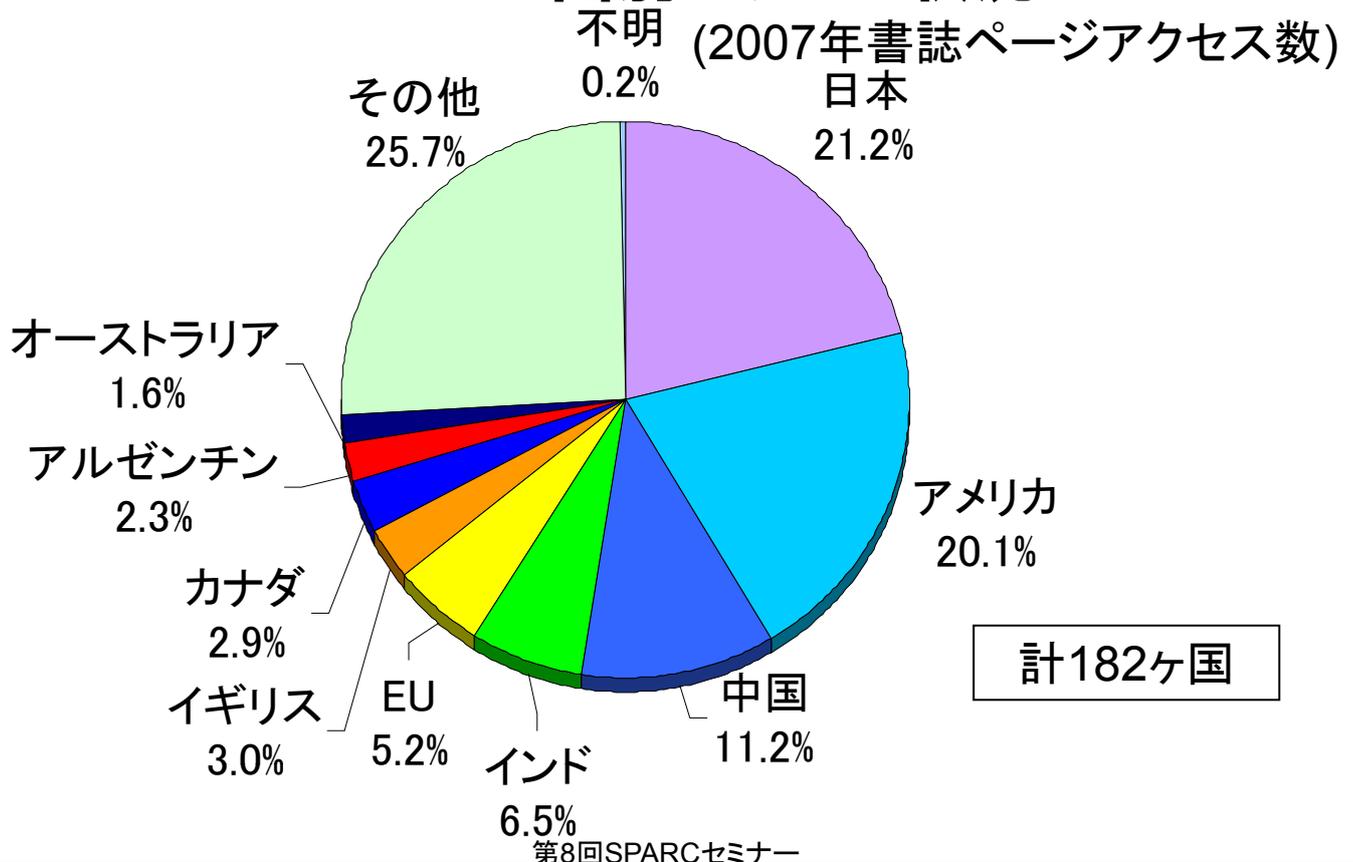


作成データ量概数延べ
4,300年
29万論文
340万ページ

Journal@rchive 登載論文数と月間アクセス数の推移



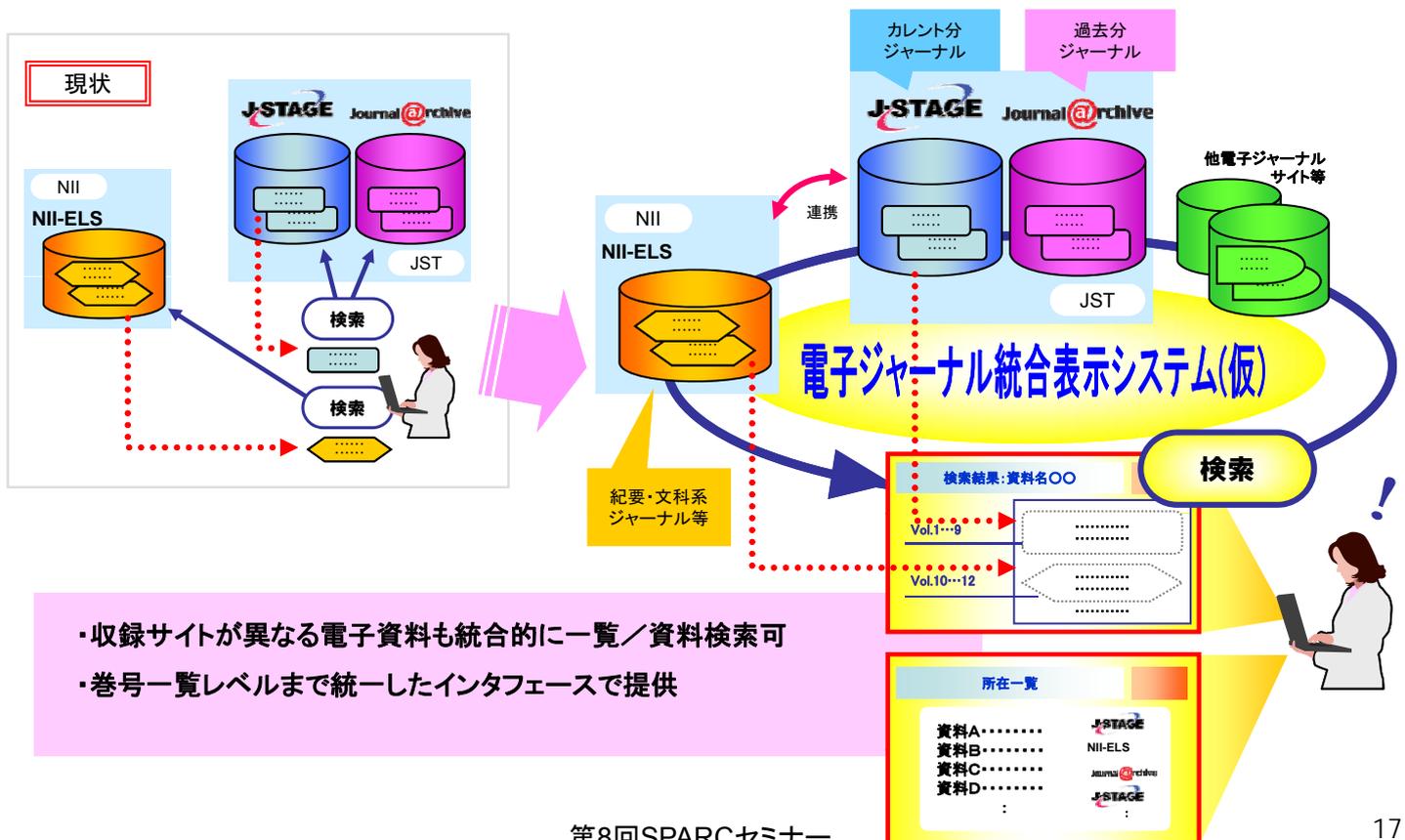
Journal@rchive 登載記事への 国別アクセス状況



今後の予定サマリー

- 電子ジャーナル統合表示システム(仮)
- Japan Link Center(仮)
- J-STAGE次期システム(J3)

電子ジャーナル統合表示システム(仮)



- 収録サイトが異なる電子資料も統合的に一覧/資料検索可
- 巻号一覧レベルまで統一したインターフェースで提供

●J-STAGE3

現状:

現行システム(いわゆるJ-STAGE2)は平成15年度から運用し、約5年経過。海外の電子ジャーナルサイトの多くが最近リニューアルしている中、機能面での一層の充実と、全面的なシステムの見直しが必要。

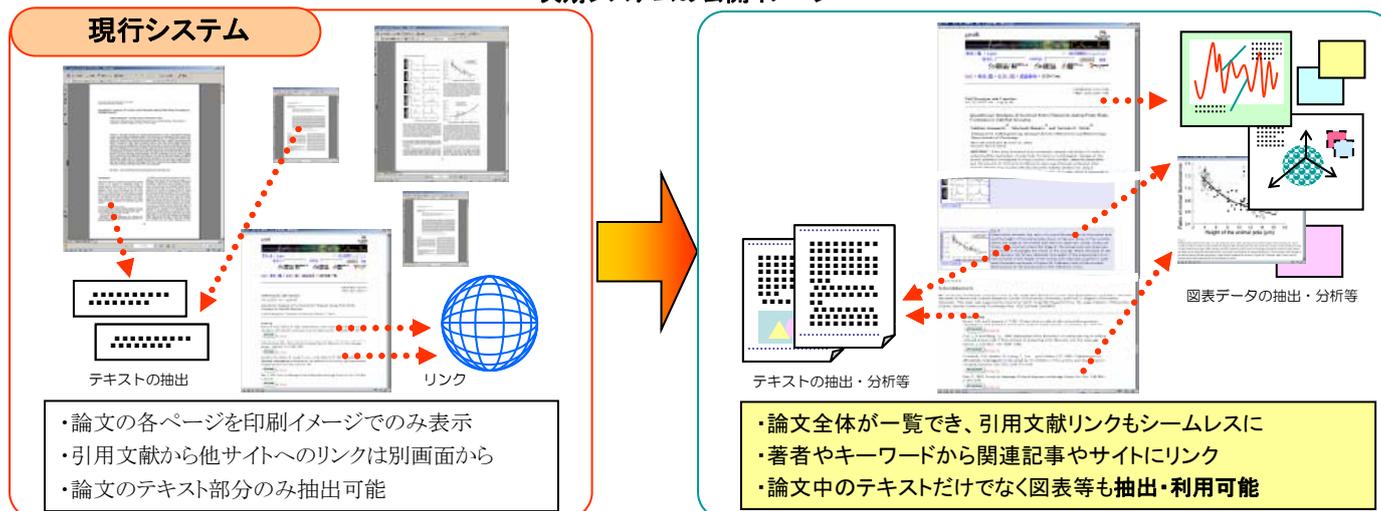
次期システム開発スケジュール(予定)

- ・平成20年度 概念検討、開発方針決定
- ・平成21年度 基本設計
学協会等ヒアリング、アドバイザー委員会での検討
- ・平成22年度 詳細設計、プログラム作成

開発のポイント

- ・データをXMLベースに全面的移行 …世界標準形式とすることで互換・流通性、付加価値性を高め、高度なデータ利用を可能にする。
- ・より高い拡張性 …機能追加や修正がより容易に行えるよう拡張性を一層向上し、コスト削減を図る。
- ・アーカイブとJ-STAGEの公開システムを統一 …閲覧者により使いやすいシステムとし、機能拡張コストの削減を図る。

次期システムの公開イメージ



第8回SPARCセミナー

18

次期バージョン (J-STAGE3)

- ・改善要望(1)
 - －現状の掲載データ(書誌情報、全文PDF)では、他システムとの連携やデータの活用が困難
 - －現状、編集作業において全文リンク確認がシステムに登録した後でないと行えない
 - －機能の硬直化、拡張費用かさむ
 - －操作性
 - －アーカイブとの統合
 - －閲覧継続性・長期保存性の保証

次期バージョン (J-STAGE3)

- 改善要望 (1)
 - 現状の登録データ(書誌情報、全文PDF)では、他システムとの連携やデータの活用が困難
 - 現状、編集作業において全文リンク確認がシステムに登録した後でないに行えない
 - 機能の硬直化、拡張費用かさむ
 - 操作性
 - アーカイブとの統合
 - 閲覧継続性・長期保存性の保証

次期バージョン (J-STAGE3)

- 改善要望 (1)
 - 現状の登録データ(書誌情報、全文PDF)では、他システムとの連携やデータの活用が困難
 - **XMLベースシステムへの移行**
 - **全文HTML形式(現状3ジャーナル)**
 - **一部分抽出や他システム連携を容易に**

次期バージョン (J-STAGE3)

- 改善要望(1)
 - 現状の登録データ(書誌情報、全文PDF)では、他システムとの連携やデータの活用が困難
 - 現状、編集作業において全文リンク確認がシステムに登録した後でないといけない
 - 機能の硬直化、拡張費用かさむ
 - 操作性
 - アーカイブとの統合
 - 閲覧継続性・長期保存性の保証

次期バージョン (J-STAGE3)

- 改善要望(1)
 - 現状の登録データ(書誌情報、全文PDF)では、他システムとの連携やデータの活用が困難
 - 現状、編集作業において全文リンク確認がシステムに登録した後でないといけない
 - **eXtyles等**の他システムとの連携

次期バージョン (J-STAGE3)

- 改善要望(1)
 - 現状の登録データ(書誌情報、全文PDF)では、他システムとの連携やデータの活用が困難
 - 現状、編集作業において全文リンク確認がシステムに登録した後でないと行えない
 - 機能の硬直化、拡張費用かさむ
 - 操作性
 - アーカイブとの統合
 - 閲覧継続性・長期保存性の保証

次期バージョン (J-STAGE3)

- 改善要望(1)
 - 現状の登録データ(書誌情報、全文PDF)では、他システムとの連携やデータの活用が困難
 - 現状、編集作業において全文リンク確認がシステムに登録した後でないと行えない
 - 機能の硬直化、拡張費用かさむ
 - **部品化、オブジェクトとリソースの分離**

次期バージョン (J-STAGE3)

- 改善要望(1)
 - 現状の登録データ(書誌情報、全文PDF)では、他システムとの連携やデータの活用が困難
 - 現状、編集作業において全文リンク確認がシステムに登録した後でないと行えない
 - 機能の硬直化、拡張費用かさむ
 - 操作性
 - アーカイブとの統合
 - 閲覧継続性・長期保存性の保証

次期バージョン (J-STAGE3)

- 改善要望(1)
 - 現状の登録データ(書誌情報、全文PDF)では、他システムとの連携やデータの活用が困難
 - 現状、編集作業において全文リンク確認がシステムに登録した後でないと行えない
 - 機能の硬直化、拡張費用かさむ
 - 操作性
 - ユーザヒアリング:
 デザイン、エラーメッセージ見直し
 (特に投稿システム)

次期バージョン (J-STAGE3)

- 改善要望(1)
 - 現状の登録データ(書誌情報、全文PDF)では、他システムとの連携やデータの活用が困難
 - 現状、編集作業において全文リンク確認がシステムに登録した後でないと行えない
 - 機能の硬直化、拡張費用かさむ
 - 操作性
 - アーカイブとの統合
 - 閲覧継続性・長期保存性の保証

次期バージョン (J-STAGE3)

- 改善要望(1)
 - 現状の登録データ(書誌情報、全文PDF)では、他システムとの連携やデータの活用が困難
 - 現状、編集作業において全文リンク確認がシステムに登録した後でないと行えない
 - 機能の硬直化、拡張費用かさむ
 - 操作性
 - アーカイブとの統合
- 編集・閲覧・検索・リンク機能の統合

次期バージョン (J-STAGE3)

- 改善要望(1)
 - 現状の登録データ(書誌情報、全文PDF)では、他システムとの連携やデータの活用が困難
 - 現状、編集作業において全文リンク確認がシステムに登録した後でないと行えない
 - 機能の硬直化、拡張費用かさむ
 - 操作性
 - アーカイブとの統合
 - 閲覧継続性・長期保存性の保証

次期バージョン (J-STAGE3)

- 改善要望(1)
 - 現状の登録データ(書誌情報、全文PDF)では、他システムとの連携やデータの活用が困難
 - 現状、編集作業において全文リンク確認がシステムに登録した後でないと行えない
 - 機能の硬直化、拡張費用かさむ
 - 操作性
 - アーカイブとの統合
 - 閲覧継続性・長期保存性の保証
- ミラーサイト／LOCKSS？
- NDLなどの他機関との連携、

次期バージョン (J-STAGE3)

- 改善要望 (2)
 - 剽窃・二重投稿チェック
 - 購読管理システム
 - 大量ダウンロード対策
 - 海外DB・販売代理店との連携
 - 複数言語対応
 - 図書館等向けメタデータ等提供I/F (SRW, OAI-PMH, Z39.50等)
 - 各種RSS配信
 - API提供、Blogとの連携

- などなど

URL と 問い合わせ先



<http://www.jstage.jst.go.jp/>

Journal  rchive

<http://www.journalarchive.jst.go.jp/>

Email: contact@jstage.jst.go.jp

ご静聴ありがとうございました